



1年間の活動を振り返って

「新時代の学びを支える同好会活動」というテーマを掲げた令和4年度。「令和の日本型学校教育」の実現が求められ、一人一台のタブレット端末の導入や個別最適な学びと協働的な学びの充実、そして働き方改革の推進。まさに、教育の新時代と呼ばれるほど、私たち教師を取り巻く環境は劇的に変化しています。そのような時代の中で、これまで社会科同好会が大切にしてきた社会科教師としての力量を向上させることを重視しつつ、ICTの活用に焦点化することで、新時代における同好会員一人一人の学びを支えるための同好会活動を進めてきました。

<研究活動を振り返って>

全中社研をベースに置きつつ、新たに学習活動の工夫として「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を重点項目とし、研究活動を推進しました。また、部会の在り方も、対面での議論の深まりとオンラインによる気軽な参加といった両方の良さを重ね合わせ、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッドな形で会を行いました。

<研修活動を振り返って>

授業力づくり講座を対面とオンラインを組み合わせたハイブリットな形で開催し、50名以上の会員に参加していただく会を行うことができました。また、授業力アップ研修グループでは、リーダーを二人体制にすることでより多様な研修を行うことができました。そして、オンライン交流会を新たに立ち上げ、会員の様々なつながりを作っていただけでなく、社会科だけに限らない幅広い話題について研修を深めました。

<広報活動を振り返って>

新たに社会科同好会の公式LINEをつくり、200名以上の会員に登録していただきました。活動の様子について、「速やかに」かつ「効果的に」情報を発信することができるようにしました。また、ホームページをリニューアルし、会員の方に限定した情報を発信できるようにしました。体験記録や指導案など、会員のニーズに応じた情報発信をできるようにしました。

最後になりましたが、会員の皆様が、それぞれの立場で社会科教師としての力量を向上させることができるよう、事務局員12名で同好会活動を推進して参りました。至らない点も数多くあったとは思いますが、1年間、お支えいただいたことに深く感謝申し上げます。

(名古屋市社会科同好会事務局長 大宝小学校 森山 勇二)

【第295号 紙面】

1年間の活動を振り返って	(p 1)
2月全体会	(p 2・p 3)
小・中学校合同発表会	(p 4)
ステップアップ研修全体会	(p 4)
授業づくり講座	(p 5)
『日々雑感』大江中学校 加藤 大知先生	(p 6)

2月全体会

2月10日(金)、オンライン会議システム「Zoom(ズーム)」を用いた社会科同好会全体会を行いました。社会科同好会副会長の野口正樹先生、社会科研究会委員長の高橋直樹先生にご挨拶をいただきました。

<校長会社会科部会長 城山中学校校長 野口 正樹 先生>

第55回全国中学校社会教育研究大会名古屋大会は、11月10日(木)、11日(金)にウインクあいちで無事に開催することができました。大会副委員長として、授業実践校の校長として、安堵の気持ちでいっぱいです。当日には、中学校だけでなく、小学校の先生方にも多数ご参加いただき本当にありがとうございました。昭和62年度、平成7年度、平成20年度の大会に比べて、同好会活動に参加する中学校の会員が少なくなってきたと言われて久しかったのですが、大会前日の準備・当日の運営には、私の想像以上に多くの中学校会員が集まってくれました。改めて名古屋市社会科の底力、頼もしさを感じました。全国大会を開催することの第一の目的は、名古屋市社会科の研究成果を全国に問うことにあります。中学校では、昭和62年の名古屋大会以来、一貫して研究テーマに「人間の生き方を問い続ける社会科学習」を掲げ、教材開発、学習展開を工夫し、時代に応じた人間の生き方を問い続ける授業づくりを行い、名古屋市社会科教育の成果を示してきました。もう一つの目的は、名古屋市社会科の人材育成にあります。大会の実施に向けて研究テーマを設定し、目指す子ども像に近づけるための授業づくりに試行錯誤することが名古屋市社会科教員を育て、名古屋市社会科の足腰を強くさせているのだと思っています。



皆さん、「288ショック」という言葉を最近聞いたことがありますか。288というのは、令和4年度の指導体験記録の名古屋市全体の応募総数です。令和3年度の応募総数は、359でしたから71の大幅な減少となりました。今年度、社会科では39の応募がありました。昨年度は35でしたので、社会科では微増という結果となります。指導体験記録の大幅な減となった理由として、働き方改革、入選者に対する免許更新制の免除が無くなったことなどが考えられますが、自分の1年間の取組を振り返り、文章にまとめ上げるという作業は、決して無駄ではなく、皆さんの教師としての力量を高めるために最も有効な手だてであると考えます。指導体験記録をまとめ上げる作業は労力のかかることです。もしも、指導体験記録をまとめ上げるのが難しいのであるならば、体験記録の形でなくてもよいので、1年間の取組を振り返り、まとめる作業を教職経験の浅いうちから、取り組んでほしいと思います。

令和5年度から名古屋市教育センターは、「新たに学び続ける教員」のイメージを打ち出しています。皆さんが教員育成指標を活用して自己評価し、自身の資質・向上を目指して、教育センターの研修や校内研修を含めた研修計画を作成して実施・記録し、管理職との話し合いを通して自らの研修成果と課題を整理するといった学びのPDCAサイクルを実現するといったものです。教育公務員特例法の21条の第1項には「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない」とあるのは知っていますか。同好会活動を始めとした様々な研修に進んで取り組み、自分自身のスキルアップにつなげてください。社会科同好会は、「よい社会科の授業がしたい」と思う教師が自主的に集い、個々の授業のスキルを磨く場です。しかし、小学校でも中学校でも社会科以外の授業や、学級指導、生徒指導、委員会指導、行事の企画・運営など社会科の授業だけをしているわけにはいきません。現在、学校教育には様々なミッションが課せられています。同時に、従前では考えられなかった問題への対応にも迫られています。皆さんの学校でも、地域や児童生徒、保護者にかかわる解決を迫られている問題を幾つも抱えているのではないのでしょうか。皆さんには、各学校が抱える課題解決に向けて率先して立ち向かってくれることを願っています。

最後に、次回の全小社名古屋大会は、12年後の令和16年度、全中社名古屋大会は、23年後の令和37年度となります。それぞれ全国大会の実施まで長い雌伏の時がありますが、この期間を有効に活用し、再び全国に名古屋市社会科教育を問えるように今後の同好会活動が進められていくことを願っています。

<名古屋市社会科研究会委員長 高橋 直樹 先生>

研究会では、市教研の運営、夏・冬の生活や学習帳の執筆、科学教室の講師など名古屋市全体の教育に関わる活動に取り組んできました。研究会から依頼する仕事の多くは、ご多忙の中、皆さんに時間を割いていただいております。ご負担に感じられたこともあるかもしれませんが、様々な経験はこの後の教員生活に生かされていくと思います。長い目で見れば、定年後の講師として子どもと関わる際に、生きるのではないかと思います。実績がある人や指導力がある人、指導の引き出しが豊富な人は、きっと来てほしいと思われるはずで。様々な役割は、短期的にも長期的にも自分自身につながるものだと思います。



職場で新しい役割を任された時、実際に自分でやってみることで分かること学べることがあります。自分でやってみることで、資料には書かれていない留意点があったり、質問してみたいことが出てきたり、成長を実感できたりします。まずは、発表される授業実践を実際に自分でやってみてください。気づきや聞きたいことが山ほど出てくると思います。すると、同好会の様々な会で顔を合わせる際に、これまで以上に話をしてみたくになります。同好会の原点は授業力の向上、そして、人とのつながりをつくることだと思います。メールや Zoom でできること、会って話さなければ分からないこと、それぞれの良さがあると思います。それぞれの立場から同好会員の皆さんが、知恵を出し合い、同好会の活動に関わっていただけることを期待しています。

<意見交流会>

研究部

推進部員を中心に、今年度の活動について振り返り、ご意見をいただきました。

- 本実践の前にプレ実践に取り組んだことは、授業実践を経験できる人が増えたり、一つの授業を多くの先生で何度も検討して練り直す体験ができたりするため価値がある。
- プレ実践での成果と課題が本実践に生きている。
- 近年求められている「個別最適な学び」「協働的な学び」について追究したことで、その大切さが分かったし、自分でも取り入れていこうと思えた。
- 毎年、研究活動を進める流れが同じため、実践単元が重なってしまう。様々な単元についての研究がなされる方が、会員にとって有意義なのではないか。これまでの研究の流れにとらわれない方法で、様々な単元の研究ができるような仕組みを整えていきたい。

研修部

若手の先生方を中心に、今年度行われた様々な研修活動の良さや今後の活動に期待することについてご意見をいただきました。

- オンライン交流会は、社会科の話題だけでなく、「学級経営」「休日の過ごし方」と様々なテーマがあってよかった。異なる年代の先生と話すことで親近感がわき、他の研修に参加しやすくなった。
- 授業力アップ研修グループでは、同年代の先生と知り合えたのがよかった。それぞれの工夫していることや困っていることを共有できる場はとても貴重である。
- ステップアップ研修は、指導者の先生の研究テーマを一覧にしたものが提示してあったことで、指導を受けてみたいと思える先生と出会えた。一年間、親身にご指導して下さったので、ありがたかった。
- グループごとに、教材研究の仕方を学ぶためにみんなで出かける形の研修があるとよい(フィールドワークの新しい形?)。
- 様々な先生の過去の実践や工夫していること、困ったことなどを話していただける場が多くあってほしい。現地で集まって、多くの先生と知り合えるような研修はもっとあるといいなと思う。

小・中学校合同発表会 1月18日(水) 於 ウィンクあいち

1月の小・中学校合同発表会は、1年間、各分野グループで研究を重ねてきた集大成の場となりました。発表会には、日ごろ同好会研究に携わっている推進部員の他に、今後の推進部員を担うであろう、若手同好会員に参加していただきました。



各分野グループの発表では、小学校部会では、今年度、重点として取り組んだ「学習活動の工夫」を中心に発表がありました。学習段階に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」を取り入れ、一体的に充実させていくことができるように進めた具体的な実践の様子についての発表は、とても興味深いものとなりました。また、中学校部会では、10月に行われた全中社名古屋大会の本実践の様子を中心に発表がありました。全中社の理論にそった学習を進める中で、生徒が合意形成に向けて共通の価値観を導き出すための具体的な実践についての発表は、小学校の先生方にも勉強になるものとなりました。

各分野グループに分かれてのグループ協議では、若手同好会員が積極的に質問している姿がとても印象的でした。体験記録や研究員応募論文等で、個人研究に真摯に取り組んでいる若手同好会員の熱意を感じるとともに、今後の同好会研究部を支える存在であることを感じる頼もしさがありました。研究部で活躍している推進部員と若手同好会員が切磋琢磨して、同好会の研究レベルを向上させ、リードしていってくれることと思います。

各分野グループが1年間真摯に取り組んだ実践によって、同好会研究部としての大きな成果を得ることができました。すばらしい実践をありがとうございました。

ステップアップ研修全体会

1月31日(火)に、ステップアップ研修全体会をオンラインで開催しました。今年度、体験記録に取り組んだステップアップ研修に参加している会員だけでなく、来年度体験記録に取り組んでみたいと考えている若手会員の先生方にも多数参加していただきました。本全体会では、以下の8名の先生方に、今年度取り組んだ体験記録の紹介をしていただきました。その後、実践についての意見交換や来年度に向けての悩みの相談、お互いの体験記録を交換することで、今後の体験記録への取り組み方について、共有し合うことができました。

金城小 堀田 拓和 先生	来年は鳥羽の火祭りに行ってみよう ～主体的に学習の問題を解決しようとする児童の育成～
大須小 湊 悠希 先生	大須ってこんな街、だから大好き! ～地域社会への理解を深め、地域に対する誇りと愛情をもった子どもの育成～
大宝小 伊藤 大智 先生	主役は私だ! ～身近な地域が抱える課題を、自らの手で解決しようとし続ける子どもの育成～
西山小 林 宙生 先生	仲間とともに学び、学びを生かすことのできる子どもの育成
露橋小 吉川 武蔵 先生	様々な立場の「あなた」に思いを寄せて ～多角的に考える力を育てる社会科学習～
相生小 大口 諒 先生	「これからの社会は私たちが創っていく」 ～社会で働く人との出会いを通して子どもの探究意欲を育む社会科授業～
昭和橋小 山口 恭平 先生	最後まで探究意欲を持続することができる子どもの育成 ～現場の声を聞き、問題解決に向けて仲間とともに学び、行政へ提案する活動を通して～
明豊中 小木 英梨奈 先生	自分たちの生活とのつながりを実感できる歴史学習 ～時代を大観する活動を通して～

<参加者の声>

自分の実践と見比べながら話を聞くことができ、今後の課題を見出すことができたのがよかったです。

実践を終えた後に報告し合うのもよいですが、年度初めに、お互いの研究計画について意見交換し合う場があると、目の前の子どもに還元できると思いました。

授業づくり講座

ICT を効果的に活用する方法、学習問題や対話的な学びについてなどの授業づくりのポイントを学ぶ「第3回授業づくり講座」が1月25日に開催されました。Zoomと対面のハイブリットで開催しました。

〈小学校授業づくり講座〉

講師 高木小学校 館 裕介 先生

テーマ 「ICTを使った楽しい授業づくり」

小学校の授業づくり講座は「ICTを使った楽しい授業づくり」をテーマに高木小学校の館先生にご講話をいただきました。

ICTを使う上で大切なことは、「ICTを活用するための活動」にならないように「〇〇するためにICTを活用する」ことが大切という話をいただきました。タブレットが導入されて二年目の今年度ですが、タブレットを使った授業に悩むことは多い中、①学習問題を効果的につくるために②自分で進んで追究するために③他者を意識した話合いにするために④自分の考えをまとめるために⑤俯瞰して学びを捉えるための工夫を具体的な活動場面を例に詳しく話をしてくださいました。また、講座の最後に、「『〇〇するためにICTを活用する』とずっと言っていました

が…若いみなさんには、まずICTをたくさん活用してほしいと思います。」と優しく提案をしてくださいました。使ってみないと分からないことがたくさんあるので、まずは、たくさん活用しようと思えるような声掛けをしてくださいました。

〈中学校授業づくり講座〉

講師 志段味中学校 久々野 将広 先生

テーマ 「単元を貫く学習課題と対話的な学びって何？」

中学校の授業づくり講座は「単元を貫く学習課題と対話的な学びって何？」をテーマに志段味中学校の久々野先生にオンラインでご講話をいただきました。若手の先生方に向けて一つの単元をどのように進めていけばいいのか、授業を行う上での基礎的なスキルについて話をいただきました。

学習課題を考える上で、学ばせることがずれないようにしなくてはいけない、そのためには教育課程や指導書なども参考にして学習課題を設定することが大切であること、また、単元をどのように構成するのがよいのか、いくつかのパターンに分けて説明していただきました。そして、久々野先生のご経験を踏まえ、パターンに沿った授業の実践例についてお話をしてくださいました。

基本的な単元の進め方についてご講話いただいた後には、若手の先生たちから様々な質問を受けていただき、若手の先生たちの疑問にお答えいただきました。特に、学習課題の設定方法についてはたくさんの質問があがり、「生徒自らが学習課題を設定させるための方法を知りたい」「学習課題を設定するときのポイントは何かあるのか」といった質問に対して丁寧にお答えいただきました。参加してくれた先生たちからは「今回が初めての参加でしたが第1回、2回も参加しておけばよかった」といったご意見が上がるなど、授業を考える上でとても参考になる講座となりました。



日々雑感

大江中学校 教頭 加藤 大知 先生

「学校は楽しいですか？」

皆さんはこの質問に「はい!」と即答できますか?よく耳にする、「『はい』か『Yes』か『御意』のどれ?」ではないですよ(笑)。

参考になるかどうか分かりませんが、私が「学校は楽しい」と思えるように心掛けていることを先に伝えます。

① 楽しくないことは、楽しくできる、納得がいくような学校に変える。

② 休日にも、平日の夜にも、楽しい予定を入れる。

①に関して、納得がいくまで、よく先輩や後輩と話をしました。話すこと、意見することによって、人からどう思われるか、自分の今後がどうなるかということは考えませんでした。

②について、予定を入れることで時間内に最大の成果を出すことができるように、自己研鑽に励みました。夏のセンター研修や同好会活動に参加したり、業務の効率化を期待できそうな、テクニックやノウハウの習得に励んだりしました。校務分掌や学級経営に関する事など、分からないことやまねしたいと思ったことは、先輩だけでなく、後輩にも躊躇なく尋ねることもありました。

楽しく生活するためには、心のゆとりが必要だと思います。また、心にゆとりをもつためには、楽しく生活することが必要だとも思います。そして、先生が楽しく学校で生活することは、子どもの健やかな成長につながると思います。ですので、私は、心にゆとりをもち、楽しく毎日を過ごすことを心掛けています。

「学校は楽しいですか？」

学校での生活は、自分の生活の一部でもあります。たくさんある道の中で、学校で生活する道を、好きで選んだのだと思います。楽しく歩いていきたいですね。

～お知らせ～

名古屋市社会科同好会のホームページを昨年12月に新しくリニューアルしました。ぜひご覧ください!同好会ひろばをカラーでご覧いただくことができます。

下のQRコードを読み取っていただくか、

「名古屋市社会科同好会」と検索して下さい。



また、新たに会員限定のページをはじめました。「学びの広場」というページが新しく追加されておりますので、ご覧ください。今年度、ステップアップ研修を受講された会員の「体験記録」や授業づくり研修会で配布された資料などがご覧いただけます。パスワードは「tokugawa15」です。

友だち追加をお願いします

LINEの「友だち追加」画面から
左下のQRコードを読み取り
追加してください。

お届けします

- 同好会ひろば
- 例会案内
- 研究・研修情報